

みのかも文化の森
年 報

Vol. 8

平成 19 年度

みのかも文化の森 年報 平成19年度

めざそうとしているもの

みのかも文化の森は、2000年10月にオープンし、8年がたちました。今、改めてこの施設がどんなことをめざして設置されたかを考えてみたいと思います。次の4つです。

①自然との共存

「みのかも文化の森」には、9ヘクタールの敷地に里山としての豊かな森があります。この森と、その「たたずまい」を、子どもも大人も「体感」できる場でありたいと願っています。人が自然から学ぶことの大事さ、得られるものの大きさをあらためて考えてみたいと思います。

②学校教育との連携

「みのかも文化の森」は自然の中に立地し、地域の文化的、歴史的資料が収集展示されている施設です。そのような素材や条件を生かし、様々な体験学習や深まりのある学習が可能となります。モノからそして人から学んだ子どもたちが、将来文化を支える人々になることを願っています。

③市民参画

「みのかも文化の森」では、ボランティアのみなさんをはじめとして多くの市民の方々が森の活動を支えます。館の事業への協力や参加にとどまらず、自由な発想と自発的な気持ちで活動に参加する、そのような協働しておこなう取り組みや企画は館の新しい力となって次へつながっていきます。

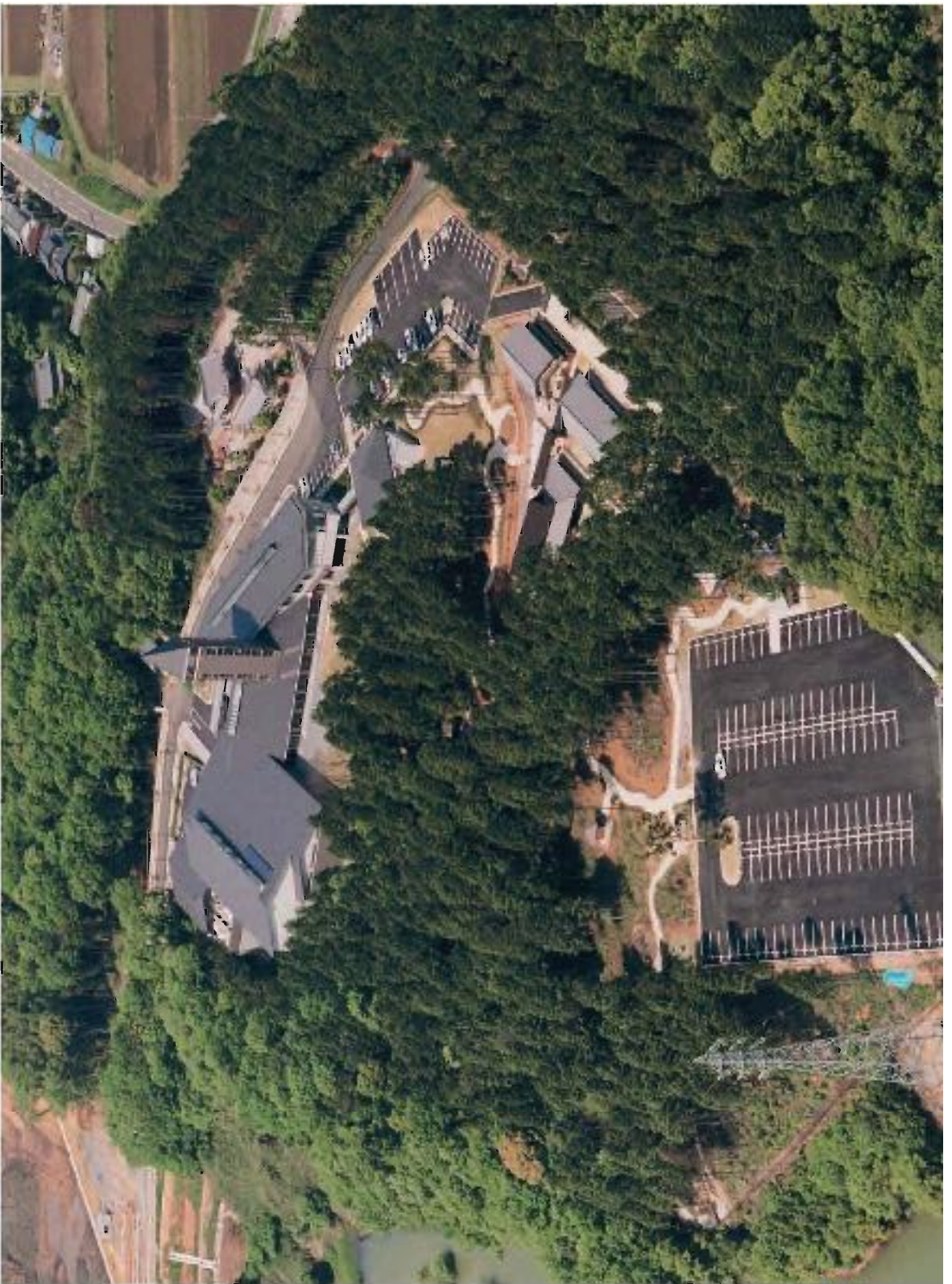
④地域づくり

「みのかも文化の森」は、いわゆる「博物館」や「教育・文化」といった限られた枠にとられず、ふだんの生活の一部として利用され、地域の様々な人々の交流の場となることをめざしています。活動をとおして「文化力」を徐々に蓄積し、社会的存在として地域の中で機能していかなければならないと思います。

設立までに20年近い長い準備期間のなかで、煮詰められたこの理念は、今も基本的に変えることはありません。日常の業務のなかでなんとなくではありますが、こんなことをいつも意識しながら活動をすすめていかなければと思っています。

施設の業務評価というものは、この設立理念にどれだけ近づけているかが第1のポイントだと考えています。5年先そして10年・20年先の姿はどうあるべきか、設立理念を基本に社会の状況を見極めて中長期計画を立て、達成すべき具体的指標を立てて取り組んでいきたいと思っています。

みのかも文化の森





目 次

常設展示	1
常設展示室・生活体験館(まゆの家)・民具展示館	
企画展	4
特別展示	9
その他のイベント	11
市民参画	12
みのかも文化の森ボランティア	18
教育普及	24
虫菌害対策	32
学校活用の理念と現状	32
施設の利用状況	38
来館者アンケート	39
広報活動の記録	41
組織図	44
利用案内	44

◆常設展示

常設展示室

美濃加茂市は、木曽川・飛騨川の合流点に位置しており、その気候や風土、人々の生活などに「川」の存在が大きく影響していたといえます。

そこで常設展示では、この地域の自然、歴史そして文化について「川とみちと人」をメインテーマに分かりやすく展示しています。さらに、美濃加茂市で生まれた坪内逍遙や津田左右吉等の業績や人柄を紹介しています。

【川と大地】

地層や岩石の調査から、当地がまだ海底だった時代、火山活動の活発な時代、盆地と湖の時代など約 2 億年の歴史をもつ大地の形成の様子を知ることができます。

また、1900 万年前に生息していたサイやゾウ、ビーバーなどの哺乳動物や淡水魚、メタセコイア・アオギリなどの多くの動・植物化石に加え映像資料で当時の様子を復元しています。

【川と文化】

美濃加茂市の遺跡から出土したものを中心に展示しています。旧石器時代から縄文、弥生、古墳時代に暮らした人々、その生活の一端に注目しました。

展示品には、この地方の弥生時代末～古墳時代初頭の代表的な墓群である為岡遺跡の方形周溝墓に供えられた赤彩の土器や発掘調査された野笹遺跡の壺棺をはじめとする資料があります。

【川と道】

江戸時代はじめ、五街道の一つとして中山道が整備され、美濃には十六の宿場が置かれました。太田宿は、中山道の難所・太田の渡しを控えた重要な宿場として栄えました。また、昭和初期にダムが建設されるまでは、イカダ流しが続けられていました。展示室では、イカダを復元製作し、見学者がカジを動かすと実際の木曽川を川下りしていく雰囲気画面上で体感できます。

【祈りの世界】

市内の遺跡からは、各時代の人々の「こころ」がこめられたものが出土しています。縄文時代の石棒や土偶、人々を飾った耳環や勾玉、埋葬品として鳥形木製品などの「いのり」を目に見える形にあらわした物が展示してあります。



【群像美濃加茂】

ここでは、美濃加茂市の文化の発展において貢献した人物を紹介しています。明治～昭和の近代日本文学界や演劇において先駆的、革新的な役割を果たした坪内逍遙や、日本の歴史について実証的、科学的な研究をした津田左右吉の業績や愛用していた遺品、二人の交流などを示した資料が展示されています。また、その他の先人についても紹介されています。



【資料紹介展示】

◇展示ガイドボランティア企画展示 ちいさな展覧会「奈良時代へ」

と き 2007(平成 19)年 10 月 26 日(土)～2008(平成 20)年 10 月 24 日(金)

と ころ 常設展示室

展示資料 雲埋遺跡（北野廃寺）、輪形古窯跡、太田元薬師廃寺跡での採集資料ほか

内 容 展示ガイドメンバーで近隣の古代寺院跡や窯跡を巡った折に採集した瓦などの展示のほか、調査した成果をまとめたパネル展示を行いました。また、これまでのボランティア活動記録も併せて紹介することができました。



生活体験館(まゆの家)

美濃加茂市内の養蚕民家を復元した「生活体験館」通称「まゆの家」。建物の随所に養蚕業と密接に結びついた生活の様子をみることができます。

生活体験館や付属施設の「体験工房」では、来館者の見学の他、学校の体験学習活動や「くらし体験講座」また、「四季を食べる講座」などさまざまな活動を行いました。



民具展示館

昭和時代、一般的に使用していた民具(養蚕や蜂屋柿、農耕及び畑作)を展示。パソコン検索「昔の道具の使い方」は、収集された民具をわかりやすく解説しています。



◆企画展

土に残る記憶V－奈良時代へー 展

(1) 趣 旨

わたしたちは、土に残された遺跡から、過去の時代を捉え、復元していくことができます。

今回の企画展では、奈良時代の様子や人々がどのように暮らしていたかについて考える機会となるよう、岐阜県の資料を中心に紹介しました。

また、学校の学習活動とも連携し、出土品などを手でさわったり、学ぶことのできるコーナーや体験講座を企画したり、児童生徒が地域の考古学調査をすすめられるような研究方法なども併せて紹介することができました。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 4 月 28 日(土)～6 月 3 日(日)<31 日間>

(3) 観 覧 料 一般 200 円(100 円)、中学生以下無料

()は 20 名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室

(5) 展示点数 130 点

(6) 関連事業

①ミュージアムフォーラム 「古代寺院の造営と律令制の成立」

わが国では、百済から仏教が伝えられて以来、勢力をもった各地の氏族が寺院を建立していきました。発掘された寺院や瓦などの資料を通じて、当時の政治状況などにも踏み込んでお話していただきました。

《2007(平成 19)年 5 月 6 日(日)14:00～15:30/会場：緑のホール/参加料：無料

／講師：森 郁夫氏(帝塚山大学教授)》

②アートな 1 日講座「墨でアートを拓本ー」

遺跡から出土した本物を使って、拓本をとりました。できた作品は、額をつくって飾れるようにしました。また、企画展解説も併せて行いました。

《2007(平成 19)年 5 月 27 日(日)13:00～16:00/会場：陶芸室/参加料：500 円》

③文化の森ふらっと みゅーじあむ「やってみようー蹴鞠 kemariー」

毎週土曜日に古代人のスポーツ「蹴鞠」を行いました。

《2007(平成 19)年 4 月 28 日(土)、5 月 5 日(土)、5 月 12 日(土)、5 月 19 日(土)5 月 26 日(土)、6 月 2 日(土)13:00～16:00/会場：芝生広場/参加料：無料》

④ミュージアムトーク 土に残る記憶V－奈良時代へー 展 展示解説

当館学芸員が展示解説を行いました。

《2007(平成 19)年 4 月 29 日(日)・5 月 2 日(水)11:00～12:00・14:00～15:00/会場：企画展示室/参加料：企画展観覧料》



⑤森のコンサート 演奏会「古代への道」

古代遺跡から出土した音具（琴の復元品など）による演奏会を行いました。復元品による音色から新たに作曲されたオリジナル曲の数々やそれらにまつわるお話しがありました。

《2007(平成 19)年 5 月 20 日(日)・14:00～15:30／会場：エントランスホール
／参加料：無料／奏者：安部 遼氏（古代音楽研究家）》

美・粒子 展 酒向絵美+渡邊太一郎

(1) 趣 旨

美濃加茂市出身の若き造形作家、酒向絵美（1981-）と渡邊太一郎（1982-）を紹介する展覧会です。酒向絵美はガラスを素材とした作品制作に取り組んできました。渡邊太一郎は陶を素材とし、美濃加茂に根ざした野焼きによって作品を完成させます。二人の最新作を含む十数点の作品を展覧しました。



また今回は関連企画として、渡邊太一郎ワークショップとして陶の成形を行い、市内で野焼きを行う講座も開催しました。この時に完成した作品は展覧会期間中、ワークショップ展として展示しました。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 7 月 7 日(土)～8 月 5 日(日)<25 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 企画展示室

(5) 渡邊太一郎ワークショップ展

《2007(平成 19)年 7 月 21 日(土)～8 月 5 日(日)／会場：企画展示室／観覧料：無料》

(6) 関連事業

①アーティストトーク

酒向絵美、渡邊太一郎が自身の制作活動や作品について語ります。

《2007(平成 19)年 7 月 7 日(土)14:00～15:00／会場：企画展示室内／観覧料：無料》

②渡邊太一郎ワークショップ

丸い形を基本にして、陶の作品を作ります。作った作品は美濃加茂市内の田地で野焼きをして完成させました。

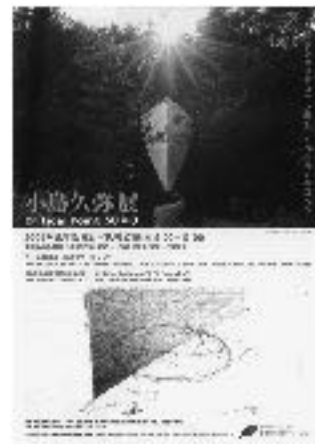
《2007(平成 19)年 6 月 23 日(土)13:00～16:00／会場：エントランスホール／参加料：300 円》

小島久弥 展

Critical Point 50⇌0 ボク達はドコから来て、ドコへ行くのだろう

(1) 趣 旨

空想と現実などの相反する概念、水や光が変化する瞬間など様々な現象における”際”を「Critical Point＝臨界点」と呼び、テーマとして発表を続けてきた名古屋市在住の作家・小島久弥（こじま ひさや／1957-）を迎え、展覧会やワークショップを開催しました。展示は企画展示室、美術工芸展示室、そして養蚕民家を復元した生活体験館「まゆの家」の三会場にわたり「まゆの家」では作家が選んだ当館所蔵品等によるインスタレーションを試みました。また、アートボランティアをはじめとする市民参加の関連企画として、9月23日の秋分の日に作家の映像制作を追体験するワークショップを開催しました。



(2) 会 期 2007(平成 19)年 9 月 15 日(土)～10 月 21 日(日)<32 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 企画展示室／美術工芸展示室／生活体験館（まゆの家）

(5) 関連事業

①アートな 1 日講座「小島久弥ワークショップ」

「にしみまど」を巡るように敷いた模型の線路の周りに自然の中で見つけた様々な物を置いてカメラ付の模型列車を走らせ、カメラが捉えた映像を撮影しました。

《2007(平成 19)年 9 月 23 日(日)15：00～18：00／会場：文化の森「にしみまど」付近／参加料：500 円》

②「critical point “ネイロ/snowing”」

小島久弥による映像インスタレーションと江藤苺夏による詩の朗読のパフォーマンスが行われました。

《2007(平成 19)年 10 月 6 日(土)15：00～16：00／会場：企画展示室・美術工芸展示室／参加料：無料》

みのかも文化の森のまわりで見られる木の実の写真展

(1) 趣 旨

美濃加茂市自然史研究会で文化の森の自然関係に携わっていただいている植物学者の須賀瑛文さんのご協力をいただき、目の前に広がる里山の中で色づいた木の実にスポットをあてた展覧会を開催しました。展示は、文化の森やその周辺でも



見られる種がほとんどで、散策しながら、本物の木の実を見つけ、自然を楽しむことができました。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 10 月 24 日(水)～11 月 11 日(日)<17 日間>

(3) 会 場 展示ホール

(4) 観覧料 無料

「逍遙とシェイクスピア～世界はすべて劇場である～」展

(1) 趣 旨

2007(平成 19)年 4 月、美濃加茂市と早稲田大学は文化交流協定を締結しました。文化交流を通じて、相互の発展と地域社会の活性化に寄与することを目的としており、今回の展覧会は両者が共催という形をとって実施する初めての事業でした。



今回の展覧会では逍遙が創設した早稲田大学坪内博士記念演劇博物館が所蔵する自筆原稿や著書などの資料を中心に、その偉大な足跡を紹介しました。展示資料には、逍遙が初めてシェイクスピア作品を翻訳した『自由太刀余波鋭鋒』、亡くなる間際の病床で校正をした『新修シェークスピア研究栞』の校正原稿など貴重な資料約 120 件を展示しました。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 12 月 15 日(土)～2008(平成 20)年 1 月 20 日(日)<25 日間>

(3) 会 場 企画展示室

(4) 観覧料 無料

(5) 関連事業

①ミュージアムフォーラム

「逍遙とシェイクスピア～翻訳と研究・上演と朗読の全体像を求めて～」

荒井良雄氏によるシェイクスピア原書の朗読や逍遙が翻訳した作品について、身振り手振りを交えながら熱のこもった講座でした。

《2008(平成 20)年 1 月 12 日(土)14:00～14:30/会場:緑のホール/参加料:無料/講師:荒井良雄氏(駒澤大学名誉教授)》

②ミュージアムトーク 展示解説

当館学芸員が資料の解説を行いました。

《2007(平成 19)年 12 月 15 日(土)11:00～12:00,14:00～15:00、2008(平成 20)年 1 月 12 日(土)11:00～12:00/会場:企画展示室/参加料:無料》

岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎

(1) 趣 旨

1947(昭和 22)年、戦後まもない時代に伏見駅前にあった亜炭労働組合本部で松本竣介(1912-1948)年、麻生三郎(1913-2000)年、舟越保武の作品が展覧されました。この地域が亜炭の採掘により経済的な繁栄をみせた時代、この展覧会は亜炭産業に関係した人々の手によって実現したと伝えられています。

本展はこの昭和 22 年の展覧会をきっかけとして地域の様子の紹介をふまえつつ、このときに展覧された作品を含めた作家達の 1940 年代の作品を中心に展示しました。

(2) 会 期 2008(平成 20)年 2 月 2 日(土)

～3 月 16 日(日)<37 日間>

(3) 観覧料 一般 300 円(150 円)、高校生以下無料

()は 20 名以上の団体料金及び、かるちすとくらぶ料金

(4) 会 場 企画展示室

(5) 関連事業

①ミュージアムフォーラム 「松本竣介－戦時下の画家」

戦中から戦後の画壇で活動した松本竣介の当時の様々な作品を紹介しながら、その画業についてお話いただきました。

《2008(平成 20)年 2 月 9 日(土)14:00～15:30／会場：研修室／参加料：無料

講師：浅野徹氏(名古屋芸術大学美術学部教授)》

②ミュージアムトーク 作品鑑賞会

当館学芸員が展示室を案内しました。

《2008(平成 20)年 2 月 3 日(日)、3 月 1 日(土)①11:00～12:00 ②14:00～15:00／会場：

企画展示室／参加料：企画展観覧料》

(6) 図 録

岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎 図録

A4 変型判 14 ページ 300 円



◆特別展示

平成 19 年度中に開催した展覧会の中で、企画展以外の展示を紹介いたします。

地域ゆかりの作家 宮本脩子展

(1) 趣 旨

美濃加茂市森山町出身の日本画家・宮本脩子氏は現在、愛知県知多市に在住し制作活動を展開しています。従来の日本画の枠にとらわれない自由なモチーフの選択、大胆な構図と鮮やかな色彩は重ねられた岩絵具の重厚感と相俟って観る者を圧倒します。本展では、平成 18 年度に作家より当館へ寄贈された作品を中心に展示しました。



(2) 会 期 2007(平成 19)年 4 月 7 日(土)～6 月 3 日(日)<48 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 美術工芸展示室

(5) 展示点数 日本画 14 点

蚕とまゆ展 07

(1) 趣 旨

この地域は古くより養蚕が盛んでした。本展では、「まゆの家」を会場に、養蚕の様子再現しながら、道具の使われ方やカイコの成育、養蚕を営む人々の生活を紹介しました。

また、5 月 25 日～6 月 5 日ごろまで、生活体験ボランティア活動のひとつとしてカイコを飼育し、来館者に養蚕への理解を深めてもらうことができました。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 5 月 26 日(土) ～7 月 29 日(日)<54 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 生活体験館(まゆの家)・民具展示館

(5) 展示点数 約 30 点

(6) 関連講座

①「真綿をつくろう」

カイコのまゆ「玉まゆ」を使って、真綿を作りました。できた真綿をキハダで染めたりもしました。

《2007(平成 19)年 7 月 7 日(土)13:00～15:00／会場：生活体験館(まゆの家)／

参加料：200 円》

②「バスツアー カイコのふしぎたんけん」

市内の養蚕農家を見学し、カイコについて学びました。

また、まゆの家にて、生活体験ボランティアの解説を聞きながら、蚕とまゆ展 07 を見学しました。

《2007(平成 19)年 7 月 25 日(水)10:00～12:00／会場：市内養蚕農家、生活体験館
(まゆの家)／参加料：無料》

第 52 回 美濃加茂市美術展

(1) 趣 旨

美術との身近なふれあいの場として、文化の発展のために市内外から広く作品を公募し、一般に公開することを目的としています。

(2) 会 期 2007(平成 19)年 11 月 17 日(土)～11 月 25 日(日)<8 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 企画展示室・美術工芸展示室・エントランスホール・展示ホール

(5) 応募点数 256 点(日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の 5 部門)



暮らしカル道具展 08

(1) 趣 旨

日々の暮らしで使われた道具をとおして、むかしの生活をふりかえります。今回は、耕す道具をテーマにしました。その土地にあわせて様々な大きさや形をした鍬を展示するとともに、市内各地域で使われた鍬の聞き取りをおこない、その成果も紹介しました。

(2) 会 期 2008(平成 20)年 1 月 12 日(土)～2 月 24 日(日)<37 日間>

(3) 観 覧 料 無料

(4) 会 場 民具展示館

(5) 展示点数 30 点

(6) 関連講座

わらを使って、昔のはきもの「わらぞうり」づくりに挑戦しました。

①わらぞうりをつくろう

《2008(平成 20)年 2 月 2 日(土)13:00～16:00／会場：工芸室／参加料：100 円》

◆ その他のイベント

みのかも文化の森でいくつかのイベントを開催しました。

□野外劇「オムニバス・シェイクスピア」

演 目 「マクベス」「ヴェニスの商人」「ジュリヤス・シーザー」
期 日 2007(平成 19)年 9 月 2 日(日)19:00～21:00
会 場 芝生広場
入 場 者 約 450 名
入 場 料 大人 300 円 高校生以下無料
出 演 劇団 近代座、みのかも逍遙座、特別出演 荒井良雄氏
内 容 坪内逍遙生誕の街として、逍遙の目指した市民文芸の向上をめざすため、逍遙の携わった演劇を上演しました。逍遙の業績を紹介するとともに、演劇を通じて市民一人ひとりが、心豊かで潤いある生活の実現と地域文化の振興を目指す催しです。

2007(平成 19)年度はシェイクスピアの三作品を連続して一度に行うという、新しい企画で上演を行いました。悲劇「マクベス」を二人芝居で描き、魔女の予言に操られて破滅してゆくマクベスとその夫人を劇団近代座が上演しました。喜劇「ヴェニスの商人」は、劇中の名場面やヴェニスの映像を背景に坪内逍遙自身の朗読が夜空に響きわたりました。歴史劇「ジュリヤス・シーザー」では逍遙の劇魂を継ぐみのかも逍遙座がシェイクスピアに挑み、見事に演じました。

□博学連携フォーラムー「博学連携」文化の森活用委員会からの提案ー

と き 2007(平成 19)年 10 月 5 日(金)
会 場 工芸室ほか

- ◇ 9:00～12:30 公開授業 理科「大地のつくりと変化」
美濃加茂市立蜂屋小学校 6 年生
- ◇ 13:00～14:30 館内見学
- ◇ 15:00～16:30 「博学連携」を考える会
 - ①「文化の森活用委員会」の取り組み
 - ②活用委員の先生の報告「博物館と学校」
美濃加茂市立山之上小学校 村田智教諭
 - ③交流会

参 加 者 100 名

内 容 文化の森での学習がより充実するよう、学校と博物館が話し合う場として「文化の森活用委員会」があります。今年度の「博学連携フォーラム」では、文化の森を過去3年間にわたり活用した学習活動を計画した活用委員の先生が、学習のねらいや先生の想いや願い、子どもの様子などについて報告していただく機会を設けました。ここから、学校を迎える博物館の姿勢、博物館を活用する先生方の姿勢について、お互いに理解しあい、共有することができました。



(写真は、午前中の公開授業の様子：化石林公園にて)

◆市民参画

みのかも文化の森／美濃加茂市民ミュージアムは、その理念に「市民参加を中心に考える」を挙げています。ここでは、「市民が主人公となり、自由な発想と自発的な活動」で計画・実施された催しを紹介します。

(1) 森のコンサート

①春のコンサート(ジャワ ガムラン アンサンブル)

と き 2007(平成19)年4月14日(土)14:00～15:00

ところ 文化の森 芝生広場

入場者 100名

入場料 無料

出演者 スカル・ムラティ

内 容 インドネシアの民族楽器の紹介、ジャワ舞踊、遊び心一杯にアレンジした曲などの演奏を楽しんでいただきました。初めて見るという方がたくさんいらっしやたので、楽器に触れたりできて楽しんでいただけました。



②サマーナイトコンサート(ジャズ)

と き 2007(平成 19)年 8 月 4 日(土)19:00~20:00

ところ エントランスホール

入場者 200 名

入場料 500 円

出演者 野々田万照 With Young Blood

粥川なつ紀 (スペシャルゲスト)

内 容 夏の夜の森に響くサックスの音色を、楽しんでいただきました。「ジャズが大好きで来ました。身近に聴くことが出来て嬉しかったです。」「普段はあまりジャズを聴く機会がないので楽しく聴けました。」などの感想をいただきました。



③クリスマスコンサート(くるみわり人形+クラシック)

と き 2007(平成 19)年 12 月 22 日(土)19:00~20:00

ところ エントランスホール

入場者 70 名

入場料 500 円

出演者 アンサンブル・ジョーカーレ

内 容 瑞浪市在住の作家中山尚子氏によるくるみわり人形のイラストとクラシックのコラボを楽しんでいただきました。森のコンサート初の試みでしたが、「紙芝居と演奏がとてもすばらしかった」「絵も演奏もファンタスティックでとても素敵だった」などの感想をいただきました。



④ニューイヤーズコンサート(日本の歌・ミュージカル・オペラ)

と き 2008(平成 20)年 1 月 26 日(土)14:00~15:00

ところ エントランスホール

入場者 130 名

入場料 無料

出演者 金光順子 (ソプラノ) / 加藤清美 (ピアノ)

内 容 エントランス中に響きわたるソプラノの美しい歌声を楽しんでいただきました。美しい歌声とピアノの演奏にたくさんの方が癒されました。「新春にぴったりの朗らかなコンサートだった」などの感想をいただきました。



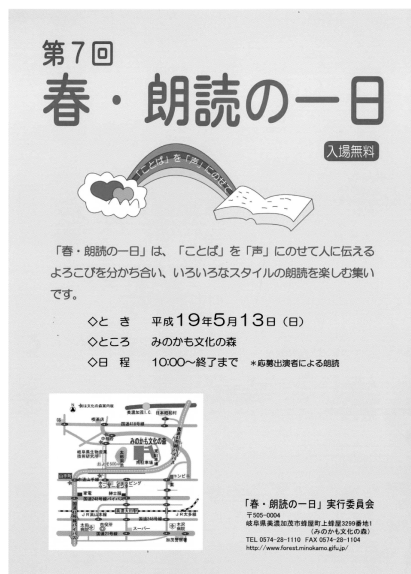
(2) 第7回春・朗読の一日

と き 2007(平成19)年5月13日(日) 10:00~16:50

ところ 緑のホール・研修室

来場者 延べ700名

内 容 一般参加者による朗読(出演者218人・プログラム数63)



会場：緑のホール



会場：研修室

(3) ビデオ上映会 第9回ゴールデンアート劇場

と き 2007(平成19)年6月17日(日)

ところ 緑のホール ①10:00~10:30 ②11:00~11:30
③13:00~13:30

入場者 50名

入場料 無料

内 容 アートボランティア主催による上映会。「世界・美の旅
ゴッホ 〜アルルのひまわり〜」を上映しました。



(4) ビデオ上映会 第10回ゴールデンアート劇場

と き 2007(平成19)年11月18日(日)

ところ 緑のホール ①10:00~10:30
②11:00~11:30
③13:00~14:00



入場者 40 名

入場料 無料

内 容 アートボランティア主催による上映会。①②では「世界・美の旅クレール ～色彩の管弦楽～」を、③では「クリスチャン・ボルタンスキーの記録」を上映しました。

(5) 森の朗読会

内 容 みのかも「声のドラマ」の会のメンバーによる朗読会が、11 月を除く毎月第 3 土曜日に行われました。声のドラマの会所属のグループが出演し、童話・エッセイ・絵本・小説などを題材に思い思いの朗読を発表しました。

2007(平成 19)年 4 月 21 日(土)「バルコニーにて」・「ベッカニコおに」

2007(平成 19)年 5 月 19 日(土)「ほうぼうさまの嫁っこ」・「地べたっこさまの詩」ほか

2007(平成 19)年 6 月 16 日(土)「おれはティラノサウルスだ」・「カーネーション」ほか

2007(平成 19)年 7 月 21 日(土)「レシート」・「風の声」・「ネクタイ」

2007(平成 19)年 8 月 18 日(土) 落語「皿屋敷」・「耳なし芳一のはなし」ほか

2007(平成 19)年 9 月 15 日(土) 『御宿かわせみ』より「白萩屋敷の月」

2007(平成 19)年 10 月 20 日(土) 『花暦』より「寒椿」・「きつねの夕食会」

2007(平成 19)年 12 月 15 日(土)「デューク」・「セロ弾きのゴーシュ」・「永訣の朝」

2008(平成 20)年 1 月 19 日(土)「母の家出」・「どすこいコメンテター」

2008(平成 20)年 2 月 16 日(土)「ルリユールおじさん」(絵本)・「息子白書」ほか

2008(平成 20)年 3 月 15 日(土)「穴に落ちた花嫁」ほか

ところ 緑のホール (8 月は生活体験館、12 月は研修室)

時 間 14:00～15:00 (8 月のみ 17:00～18:00)

入場料 無料



H19.12.15 会場：研修室

(6) 第8回まゆの家まつり

と き 2007(平成19)年10月27日(土)、28日(日)各日10:00～15:00

ところ 生活体験館(まゆの家)

主 催 まゆの家まつり実行委員会

(生活体験ボランティア、伝承料理の会、学習支援ボランティア)

参加料 無料

内 容 本年度で8回目を迎えた、まゆの家まつり。

文化の森ボランティアのみなさんによる、ちょっと昔のくらしをみる、あそぶ、たべるを体験して楽しくすごしました。

(7) 第11回 朗読フェスティバル

と き 2007(平成19)年12月2日(日)

時 間	発 表・公 演	入 場 料
10:30～12:00	声のドラマ 2007 受講生(3・8)クラス	無 料
13:00～16:10	声のドラマ 2007 受講生(1・5・10・12)クラス	
16:30～17:30	講師の公演(戸村美智子氏・岡摂子氏) (講師:放送表現教育センター)	1000 円

ところ 緑のホール・エントランスホール

出演など 出演51名 来場者延べ500名

内 容 第3回(平成8年度)坪内逍遙大賞受賞者・加藤道子氏(女優)の朗読講座を機に、市民の朗読熱が高まり、平成11年に、みのかも「声のドラマ」の会が発足。朗読を通して地域の文化の発展につながっていくことを目指して活動を行っています。朗読講座(指導:放送表現教育センター)で学んだ受講生による成果の発表の場として朗読フェスティバルを開催しました。あわせて、指導していただいた講師による朗読公演も行われました。



(8) フリーマーケット

と き 2007(平成 19)年 10 月 28 日(日)10:00～15:00

ところ 実習棟テラス・工芸室

内 容 文化の森の講座から生まれたサークルやボランティアのみなさんが、自分たちの作品の販売や他のサークルとの交流を深めながら、情報交換の場としました。

作 品 陶器・版画・染物 ほか



(9) 展示ガイドボランティア企画展示 ちいさな展覧会「奈良時代へ」体験コーナー

と き 2007(平成 19)年 10 月 28 日(日)

ところ 常設展示室

内 容 展示ガイドメンバーで近隣の古代寺院跡や窯跡を巡った折に採集した瓦などの出土品にふれたり、宮中に仕えた女官の衣装を復元したものを実際に着てみる体験などを行いました。親子連れの参加も多く、衣装を着て館内や芝生広場を歩いたり、写真撮影をして楽しむことができました。



◆みのかも文化の森ボランティア

みのかも文化の森では、2000 年 10 月のオープン当初から、多くの方がボランティア活動をしています。「文化の森で何かしたい」という思いを持ったボランティアの活動は、来館者と文化の森をつなぐ重要なパイプであり、文化の森の大きな特徴になっています。

1. 目的

- ①文化の森と来館者および地域の人々との橋渡しの役割を果たしてもらい、より親しまれる文化の森とするため。
- ②多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。
- ③市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

2. 各ボランティアの活動内容

- ・展示ガイド・・・常設展示室の案内や展示品に親しむことのできるようなイベントの企画をしています。
- ・アート・・・文化の森の講座やワークショップのお手伝いや自主企画のイベントを行います。
- ・生活体験・・・主に生活体験館(まゆの家)・民具展示館において、来場者への解説、講座やイベントでの講師・お手伝いをします。
- ・学習支援・・・児童・生徒が文化の森で学習する際にお手伝いをします。
- ・伝承料理の会・・・この地域に伝わる料理を研究し、生活体験館のクドを使い「四季を食べる講座」で教えています。
- ・イベント・・・「森のコンサート」など文化の森でおこなうイベントを中心にお手伝いをします。

※基本的には、ボランティアの方々の都合の良い時に活動していただいています。

3. その他

資格・・・18 才以上ならどなたでも。経験・性別、美濃加茂市民か否かは問いません。

報酬・・・無償です。

特典・・・みのかも文化の森が主催する他館の視察や見学会に参加できます。

企画展等へ団体料金で入場ができます。

活動中、万一の事故に備え、市の負担でボランティア保険に加入しています。

4. 世話人会と広報紙「つぶらじい」編集委員会

各分野の中で2人ずつ世話人を選出します。6つの分野の世話人と文化の森の職員とで世話人会を構成します。本会は必要に応じて文化の森が会を召集し、その時の議題について話し合います。

また、各分野から1名ずつ広報編集委員を選出し、広報紙「つぶらじい」を発行しています。

5. 研修

ボランティアとして活動するにあたり、必要な知識や経験を学んでいただくために研修会を行います。ボランティア登録したすべての方を対象とした全体研修と個々の分野の、より専門的な知識・経験を得るための個別研修があります。平成19年度中に開催した研修は下記の通りです。

(1) 全体研修

①2007(平成19)年4月21日(土) ボランティア説明会

8名の方が登録されました。

②2007(平成19)年5月2日(水)、5月3日(木・祝)

「土に残る記憶Ⅴ－奈良時代へー展」についての解説研修会

③2007(平成19)年6月2日(土) 第1回ボランティア世話人会

④2007(平成19)年8月17日(金)、19日(日)

「星野道夫－星のような物語－展」についての解説研修会

⑤2007(平成19)年9月21日(金) (INAXライブミュージアム：愛知県常滑市)

焼き物の町・常滑市にある私立の博物館を見学し、焼き物の歴史について学びました。

⑥2007(平成19)年9月30日(日)

「能楽座」能・狂言公演－第11回坪内逍遙大賞受賞・観世榮夫師追悼－研修会

⑦2008(平成20)年1月12日(土)

「逍遙とシェイクスピア～世界はすべて劇場である～」に関連するミュージアムフォーラムの参加

⑧2008(平成20)年2月3日(日)、21日(木)

「岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎」についての解説研修会

⑨2008(平成20)年2月29日(金) (岐阜市歴史博物館：岐阜市)

歴博ボランティア「ものしりはかせ」の活動について、小学校1年生の児童が国語「たぬきの糸車」の学習での糸つむぎの学習や子どもとの関わり方を見学したのち、30分間ほど交流の時間を設け、ボランティアの活動方法や心構えなどを話合いました。

⑩2008(平成20)年3月23日(日) 第2回ボランティア世話人会

一年間の活動や各ボランティアの課題について意見交換を行いました。

(2) 個別研修・会議など

□展示ガイド

4/18	学校活用での指導、定例会
4/19	学校活用での指導
4/28	蹴鞠講座補助
5/ 6	ミュージアムフォーラム補助
5/ 9	学校活用での指導
5/11	美濃加茂市周辺の古代遺跡現地調査
5/12	蹴鞠講座補助
5/18	学校活用での指導、採集品の整理作業・拓本講座準備
5/19	蹴鞠講座補助
5/20	森のコンサート「古代への道」補助
5/26	蹴鞠講座補助
5/27	拓本講座指導
5/29	学校活用での指導
6/ 2	蹴鞠講座補助
7/14	打合会
8/ 1	七宝町アートヴィレッジボランティアの視察対応①
8/ 8	七宝町アートヴィレッジボランティアの視察対応②
8/12	星野道夫作品鑑賞会補助
8/17	定例会
10/ 3	定例会
10/26	ちいさな展覧会「奈良時代へ」展示設営
10/27	木の実の写真展解説会参加
10/27	ちいさな展覧会「奈良時代へ」及び常設展示解説①
10/28	ちいさな展覧会「奈良時代へ」及び常設展示解説②
12/16	定例会
2/10	定例会
3/14	「土に残る記憶Ⅵー中世びとの世界ー」に関する勉強会

□アートボランティア

4/10	定例会
4/17	彫刻清掃(文化会館)
4/22	アートな1日講座 「モザイクタイル」 講座運営
5/ 8	定例会
5/27	アートな1日講座 「墨でアートー拓本ー」 サポート
5/29	彫刻清掃 (小山公園)
6/12	定例会
6/17	ビデオ上映会①
6/19	彫刻清掃(大手町公園)
6/23	渡邊太郎ワークショップサポート
6/24	アートな1日講座 「陶芸」 サポート
7/10	定例会
7/22	アートな1日講座「Tシャツプリント」 サポート
8/ 2	彫刻清掃(前平公園)
8/21	定例会
8/26	アートな1日講座「パソコンでアート」 サポート
9/ 4	小島久弥展展示準備サポート
9/11	定例会
9/12	彫刻清掃(文化の森)
9/19	小島久弥ワークショップ準備サポート
9/23	小島久弥ワークショップサポート
10/ 6	小島久弥パフォーマンスサポート
10/16	定例会
10/21	アートな1日講座「陶芸」 サポート
11/13	定例会
11/18	ビデオ上映会②
12/ 9	アートな1日講座「高島純さんとクリスマスペーパークラフト」 サポート
12/11	定例会
1/ 8	定例会
1/27	アートな1日講座「フィギュアをつくろう」 サポート
2/13	定例会
2/24	アートな1日講座「フェルト」 サポート
3/12	定例会
3/23	アートな1日講座 「陶芸」 サポート

□生活体験

4/ 7	お手玉づくり
4/13	生活体験ボランティア運営委員会(4・5月の活動について)
5/25	生活体験ボランティア全体会(役員選出、年間事業計画、まゆ展内覧会)
5/25～6/ 5	カイコ飼育当番
6/15	生活体験ボランティア運営委員会(6・7月の活動について)
6/17	犬山市子ども大学・蚕とまゆ展見学サポート
7/ 7	お茶の木肥料やり
8/17	生活体験ボランティア運営委員会(8・9月の活動について)
8/30	山手小学校おもしろ活動リハーサル
9/ 5	生活体験ボランティア運営委員会(まゆの家まつりについて)
9/20	生活体験ボランティア運営委員会(まゆの家まつりについて)
10/18	生活体験ボランティア全体会(まゆの家まつり準備会)
10/20	山手小学校おもしろ活動・昔遊びのサポート
10/26	まゆの家まつり 前日準備
11/ 9	生活体験ボランティア運営委員会(12・1・2月の活動について)
1/16	生活体験ボランティア運営委員会(道具展関連講座について)
1/24	わらざうりづくり講座リハーサル
3/15	生活体験ボランティア全体会(来年度事業計画、ご飯炊き練習会Ⅱ)

※学校活用での講師としての活動は含まない。

□学習支援

4/13	学習支援ボランティア顔合わせ会
5/11	学習指導要領わいわい勉強会
7/19	「森の音作り講座」準備会
9/8、9	「森の音作り講座」開催

※平日の学校活用での活動は、含まない。

□伝承料理の会

4／15	四季を食べる講座「うどん 16 パイ」リハーサル
4／25	四季を食べる講座「手打ちそば」リハーサル
5／10	四季を食べる講座「手作り豆腐」リハーサル
5／31	四季を食べる講座「朴葉餅こも豆腐」リハーサル
6／ 6	四季を食べる講座「梅の漬け方」リハーサル
6／27	四季を食べる講座「うどん 16 パイ（２）」リハーサル
7／ 4	四季を食べる講座「ミョウガ寿司」リハーサル
7／ 6	四季を食べる講座「ユワカシおはぎ」リハーサル
7／26	四季を食べる講座「すいとん」リハーサル
7／31	四季を食べる講座「お盆のごちそう」リハーサル
9／ 4	まゆの家まつり試作
9／12	四季を食べる講座「栗おこわ」リハーサル
9／27	四季を食べる講座「さんまご飯」リハーサル
11／ 9	四季を食べる講座「冬至のごちそう」リハーサル
11／29	四季を食べる講座「大歳のゴッツオ」リハーサル
12／ 4	代表者会「四季を食べる講座メニュー決め」
12／11	四季を食べる講座「おせち料理」リハーサル
1／25	四季を食べる講座「精進料理」リハーサル
1／31	四季を食べる講座「ひなまつりのごちそう」リハーサル
2／ 5	四季を食べる講座「春のまつりのごちそう」リハーサル
2／13	特別講座「がんどうち」リハーサル
2／23	みそ作り
3／ 6	総会
3／21	研修会

※学校活用、文化の森の主催する講座、子ども会等での講座の講師としての活動は含まない。

□イベント

4／14	春のコンサート
8／ 4	サマーナイトコンサート
12／22	クリスマスコンサート
1／26	ニューイヤーズコンサート

6. 平成19年度の最終登録数

	展示ガイド	アート	生活体験	学習支援	伝承料理	イベント
平成19年度	13	17	37	26	46	18
全体 のべ	153名					

※平成19年度の登録人数は、最終の人数です。

◆教育普及

1. 各種講座

(1) 「定期講座」

美濃加茂市民ミュージアムでは、事前に受講生を募集して継続的に行う各種講座を開講しています。それらは、市民ミュージアムの特色を生かした内容となっています。

平成19年度は、「機織り(初級)」「機織り(中級)」「はじめての自然観察講座」「イラスト教室」「歴史講座」「はじめての能楽講座」の6講座です。

名 称	開催日	回 数	受講者
機織り(初級)	5月17日～	5	5名
機織り(中級)	9月 6日～	5	4名
イラスト教室	5月19日～	6	8名
はじめての自然観察講座	5月26日～	7	18名
歴史講座「この地域と尾張藩について」	6月17日～	4	36名
はじめての能楽講座	9月22日～	2	22名

(2) 「アートな1日講座」

市民ミュージアムに当日訪れた来館者の方が、気軽に美術関連の体験を行うことができる講座です。当館には、陶芸制作に伴う各種施設やフィールドとしての森に恵まれており、それらに関連したものや企画展とタイアップさせた内容で開催しています。

名 称	開催日	受講者
モザイクタイル	4月22日	26名
墨でアートー拓本ー	5月27日	5名
陶芸(手びねり・ろくろ)	6月24日	33名
コラグラフ	7月22日	7名
パソコンでアート	8月26日	8名

小島久弥ワークショップ	9月23日	5名
陶芸(手びねり・ろくろ)	10月21日	23名
お菓子でつくるクリスマス	11月25日	14名
高島純さんとクリスマスペーパークラフト	12月 9日	60名
フィギアをつくろう	1月27日	16名
フェルト	2月24日	20名
陶芸(手びねり・ろくろ)	3月23日	22名

(3) 「森と暮らしの体験講座」

①四季を食べる講座

市民ミュージアムで活動するボランティアである「伝承料理の会」と共に、この地域で伝統的に伝わる四季折々の料理を作って、食べる体験をする講座です。「伝承料理の会」と一緒に作り、語り合いながら食をとおして昔の暮らしを学びます。

名 称	内 容	開催日	受講者
四季を食べる①	ちまきとあまちゃ	4月15日	17名
四季を食べる②	山菜おこわ	5月 8日	17名
四季を食べる③	手作り豆腐	5月20日	20名
四季を食べる④	朴葉もちとこもどうふ	6月 5日	27名
四季を食べる⑤	梅のつけ方と梅料理	6月17日	28名
四季を食べる⑥	うどん16パイ	7月 3日	18名
四季を食べる⑦	ミョウガ寿司	7月15日	21名
四季を食べる⑧	お盆のごちそう	8月 7日	9名
四季を食べる⑨	すいとん	8月19日	8名
四季を食べる⑩	ユワカシとおはぎ	9月 4日	16名
四季を食べる⑪	重陽の節句のごちそう（栗おこわ）	9月16日	14名
四季を食べる⑫	さんまご飯	10月 2日	21名
四季を食べる⑬	へボご飯とむかご	11月 6日	7名
四季を食べる⑭	冬至のごちそう	11月18日	9名
四季を食べる⑮	大歳のゴッツオとイワシ	12月 4日	13名
四季を食べる⑯	おせち料理	12月16日	20名
四季を食べる⑰	小正月のごちそう	1月20日	9名
四季を食べる⑱	精進料理	2月 5日	17名

四季を食べる⑱	ひなまつりのごちそう	2月17日	15名
四季を食べる⑳	春のまつりのごちそう	3月 4日	17名

②「くらし体験講座」

かつては、どこの家庭でも行われていた、昔懐かしい日常の1コマを再現します。
生活体験館(まゆの家)を中心として、参加者と生活体験ボランティアが一緒になって体験活動するものです。

名 称	内 容	開催日	受講者
くらし体験①	季節を染める「春を染める」	4月28日	18名
くらし体験②	お茶摘み体験	5月 3日	29名
くらし体験③	真綿づくり	7月 7日	17名
くらし体験④	季節を染める「夏を染める」	8月 4日	14名
くらし体験⑤	虫かごづくり	8月11日	27名
くらし体験⑥	季節を染める「秋を染める」	9月22日	10名
くらし体験⑦	障子はり	12月 1日	6名
くらし体験⑧	季節を染める「冬を染める」	12月 8日	17名
くらし体験⑨	わらざうりづくり	2月 2日	11名
くらし体験⑩	まゆびなづくり	2月16日	17名

③「生活体験館(まゆの家)年中行事」

私たちの暮らしは、一年のうちで決まった時期に行われる儀式や催し物によって季節が意識されています。まゆの家でも来館者と共に行っています。

名 称	開 催 日
鯉のぼり立て	4月15日～5月 5日
七夕かざり	6月23日～7月 7日
蚊帳つり	8月11日～8月31日
門松かざり	12月16日～1月12日
鏡開き	1月12日
ひなかざり	2月16日～3月 2日

④「森であそぼ講座」

夏の文化の森で行った体験講座です。森の植物の標本づくりや昆虫を観察し、自然の楽しさを学びました。

名 称	内 容	開催日	受講者
植物標本づくり	文化の森周辺で見られる植物を採取し、標本を作りました。	7 月 29 日	22 名
		8 月 5 日	21 名
バッタの生態観察	文化の森周辺で見られるバッタを採取しながら観察しました。	8 月 5 日	16 名

子どもわくわくプログラム



美濃加茂市フロム0オプラン

子どもや若い人たちの豊かな心をはぐくもうとする催事です。

土、日、夏休み、春休みなどの休日（学校休業日）に、自然観察や歴史学習、図画工作などの体験的な[学び]を学習係が企画して行う講座を「子どもわくわくプログラム」として位置付けています。このプログラムは、子どもたちが文化の森を身近に感じ、居場所としての機能を果たすことができることをねらいとしています。あわせて、その活動に関わる大人が子どもと関わりを持ち、自身の経験を活かすことができることも期待します。

子どもわくわくプログラム1「夏休み子ども講座」

この地域の歴史や自然、文化を次世代の子どもたちに受け継がれていくこと、親子の時間を持つことができることを願い、3つの講座を企画しました。大学生などの協力を得て開催しました。

名 称	内 容	開催日	受講者
ナイトサファリ	夜の森に明りとバナナを使ったわなを仕掛け、どのような昆虫が集まってくるのかを観察し、集まる虫の種類からどのようなことが分かるかの話を聞いた。あわせて、虫の捕まえ方や飼いかたについても学んだ。	7 月 26 日	28 名
おしゃれなぼうし	画用紙を使いながら、生き物の形などをしたぼうしを作成した。	7 月 28 日	4 名

パソコンで作ろう	新しいソフト（フォトショップ）に挑戦した。森で撮影した風景の写真を、切り取り、ハガキサイズの作品として仕上げた。	8月18日 8月19日	6名
----------	--	----------------	----

子どもわくわくプログラム2「文化の森たんけんたいーはくぶつかんのひみつをさぐる」

文化の森での学校での学習はいつも決まったプログラムで行っています。学校活用をとおして子どもたちは様々なことを学んでいますが、子どもたち自身の「知りたいな」という気持ちを引き出し、文化の森を子どもたちの目線にとらえさまざまな「ふしぎ」をまとめて、夏休みの研究のきっかけとしてみたいと考えました。あわせて子どもたちの学びの姿から文化の森・博物館のあり方を考えるきっかけとしたと思います。



事前申込の、5日間連続の講座です。本年度は6名の小学生が参加しました。研究テーマは、「針坊主について調べよう」、「美濃加茂の地層を調べよう」、「みのかも文化の森大探検」、「おカイコの研究」、「ぴかぴか光るどろだんご」、「太郎洞池と太郎八さん」でした。この成果は、「美濃加茂市科学作品展・社会科作品展」期間中に、文化の森のエントランスホールで発表しました。

	名称	内容	開催日
1	はじめましての会	かまどでごはんを炊く 文化の森バックヤードツアー 課題見つけ	7月27日
2	たんけん活動①	各自の課題に沿ってたんけんを行う。	8月3日
3	たんけん活動②		8月17日
4	たんけん活動③		8月24日
5	まとめの会	たんけん活動のまとめを行い、発表会を開催した。	8月30日

子どもわくわくプログラム3「ふらっとみゅーじあむ」



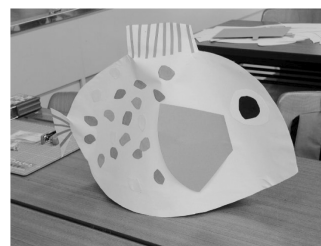
予約なしで、気軽に文化の森に遊びにきて、何かをつくったり体験したりする講座として企画しました。本年度は4月の連休の一日と夏休み期間中の8月の木曜日の午後という固定した日時・場所を設定しました。

夏休み期間中の全6回のうちすべてに参加した子どもは21名でした。

名 称	内 容	開催日	受講者
むすんで、むすんで	エントランスホールにあるいろいろなものを、色付きのリボンで結んで飾る。	4月29日	12名
キラキラばこ	のぞくと、きらきらしている万華鏡のような箱を作る。	8月1日	85名
まるちょっくん	画用紙を丸に切り取り、その丸を使って絵を描く。	8月8日	56名
ぱらり、ぱらり	折り曲げると次の絵にかわる、「4コママンガ」を作る。	8月15日	44名
「ほしのみちお」 ワールドへGO！	写真家・星野道夫の写真展を観覧し、お気に入りの写真を、ちぎり絵で表現する。	8月22日	39名
くるくる こねこね	熱を加えると消しゴムになる粘土で、小さなものを作る。	8月29日	82名

子どもわくわくプログラム4「子ども造形ワークショップ」

岐阜大学の辻泰秀先生（美術教育）と大学生のみなさんによるワークショップです。美術教育に関わる学生と子どもたちの交流を大切にしていきたい講座です。今年度は、夏休みの子ども講座として「おしゃれなぼうし」を開催しました。



子どもわくわくプログラム5「森の音作り講座」

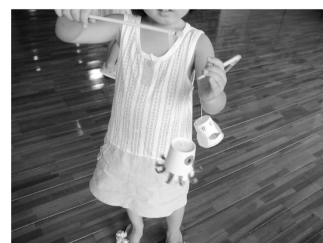
学習支援ボランティア自身が遊んだり、作ったりしたもので音の出る「おもちゃ」を作る企画講座です。美濃加茂市科学作品展・社会科作品展開催中の休日に開催しています。本年度は「がっこちゃん パート2」を作りました。過去に作った「がっこちゃん」の改良版でした。

とき：9月8日(土)、9日(日) 両日とも10:00-11:00

会場：エントランスホール

受講者：70名

材料費：無料



子どもわくわくプログラム6「フォレストくらぶ」

本年度、初めて開設したプログラムです。年6回の土曜日の午前中に、みのかも文化の森で集まってここでしかできない体験をする講座です。参加者は、4月に募集したメンバーで行います。



名 称	内 容	開催日
なかよしっ！	フォレストくらぶの会員バッチをつくり、みんなでお昼ご飯をカマドで炊きました。	5月26日
作家とアート1	7月の展覧会「美・粒子」展の作家・渡邊太一郎さんと一緒に作品を作りました。作家さんの「きもち」になって挑戦しました。	6月23日
作家とアート2	展覧会を見学してから、6/23に作った作品を野焼して完成させる予定でした。天候の都合により、後日渡邊太一郎さんと学習係が野焼きを行いました。	悪天候のため 中止
江戸あるき	江戸時代の地図を見ながら、中山道を歩き古くから伝わる町並みを散策しました。中山道会館のそばにある糸遊庵でお抹茶をいただきました。	10月20日
秋の森であそぼう	焼いも作りと、芝生すべりを楽しみました。	11月23日
アートカード で遊ぼう！	アートカードゲームをしながら、楽しく絵の鑑賞をしました。	2月23日
スペシャルフォレスト くらぶの日	予定にはなかったのですが、みんなでご飯を炊いて、「おわかれランチの会」をしました。	3月22日

3. 博物館実習

博物館において、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を司る職員が学芸員ですが、学芸員養成課程をもつ各大学の要請により、当館で実習が行われました。

平成19年度は、7/31(火)～8/4(土)の5日間について、岐阜聖徳学園大学(4名)、岐阜大学(1名)、愛知県立芸術大学(1名)、金沢大学(1名)の7名に対して行いました。

日 程	時限	実習内容	活動場所	形態	備 考
7/31	1	オリエンテーション	陶芸室		
	2	館内見学	館内、外	見学	
	3・4	展覧会の企画と準備①	民具展示館 情報学習室	実習	民具展示館展示替え (一部)
8/ 1	1・2	学芸員と博物館の仕事	研修室ほか	講義	
	3・4	自然資料の取扱いと整理	研究室	実習	標本作成など
8/ 2	1・2	屋外彫刻の整備	前平公園	実習	アートボランティアとの 協力
	3・4	展覧会の企画と準備②	民具展示館	実習	民具展示館展示替え (一部)
8/ 3	1・2	博物館資料の取り扱いと 整理	収蔵庫ほか	実習	歴史資料の取り扱い
	3・4	収蔵庫の環境と管理	収蔵庫1・2	実習	
8/ 4	1・2	虫菌害対策	別棟収蔵庫 ほか	実習	燻蒸作業ほか
	3	展示と展覧会の進め方	民具展示館 ほか	講義	
	4	実習レポートの作成			



◆虫菌害対策

収集等された博物館資料は、原則として一時保管場所へ搬入し、燻蒸後に収蔵庫へ搬入します。また、特に収蔵庫や展示室等を中心とする重要なエリアについては、害虫の進入を遮断するための措置や清掃を行っています。

<資料の燻蒸>

当館では燻蒸施設がないため、専門業者へ委託して実施しています。内容は、移動燻蒸車による燻蒸作業を二回、被覆燻蒸を一回行いました。移動燻蒸車の容量は約82.8立方メートル。薬剤はフッ化スルフリルを使用しました。

<民具展示館・民具収蔵庫の燻蒸>

専門業者へ委託して実施しました。薬剤は、シフェノトリンを使用して一回行いました。

<モニタリング>

専門業者によるモニタリング調査を行っています。収蔵庫や展示室等を中心とする館内に粘着トラップを設置して、害虫の発生状況を把握するためのものです。8月・3月の二回、行いました。また、二ヶ所の収蔵庫についてダスト測定を行い、埃等の庫内環境についても把握するよう努めています。

◆学校活用の理念と現状

1. 学校教育とみのかも文化の森

(1) 小中学校が博物館を利用する意味

みのかも文化の森／市民ミュージアムは、設立準備段階から市内小中学校の教員で構成する委員会を立ち上げ、学校との連携を重点として進めてきました。すでに平成元年度告示の「小学校学習指導要領 社会」には、「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行い」とあり、同じく「中学校学習指導要領 社会」には、現行のと同文が記されています。そして平成10年度においても、さらに現行の学習指導要領では、各学年の指導計画を作成するに当たって社会、理科、図画工作、美術、そして総合的な学習の時間等に、博物館や美術館、郷土資料館等の見学・調査・活用を図ることが示されています。多くの教科でまた生涯学習の面から、ますます博物館と学校教育の関係が重要になってきました。

これは、「生涯にわたる学びの場」としてミュージアムをとらえ、それを自分の学びへと取り込める人を育てることと重なります。みのかも文化の森／市民ミュージアムには人、自然、文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて調査・研究する学芸員がい

ます。そして児童生徒にとっては、生涯にわたって学んでいる先輩と言えるボランティアがいます。さらに、その要素を学校と結ぶ学習係がいます。児童生徒がここで具体的に学習したり、人との関わりから学んだりする体験ができるように、組織的に仕組むことによって、学校が意図する学習のねらいを、より効果的に実現させることが可能です。

（２）みのかも文化の森の学習支援体制と設備の特色

みのかも文化の森にある様々な資料やボランティア、そして専門の学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校がみのかも文化の森を計画的・継続的に利用することが前提となります。ここでの学習は、教科学習や総合的な学習の時間のように、学校の年間指導計画（カリキュラム）に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。学校の授業と同様に、また「森の学校」でしかできない授業ができるようにと、学校と文化の森とをつなぐ様々な支援体制をつくってきました。

①学校教育活動を具体的に結ぶ文化の森学習係

学校とみのかも文化の森との連携を密にし、各教科・領域の年間計画に基づいた単元目標を達成するための継続的・計画的な授業とするために、みのかも文化の森には学習係が位置づけられています。学習係長は教育委員会学校教育課との兼務であり、教諭がその職にあります。学習係は現在4名で構成され、学校との連絡調整や学習内容の検討、来館した児童生徒の指導等を行っています。その中で最も大切にしているのは、事前の打ち合わせです。学習のねらいを共通理解し、学習内容や時間、担任や学習係、学芸員、学習支援ボランティアの役割分担を具体的かつ明確にするために、これは欠かせない営みです。

②教員で構成された文化の森活用委員会

文化の森活用委員会は、併設する教育センターに事務局を置いています。代表学校長を委員長に、市内の小中学校の教諭で構成され、活動プラン作りや自校への活動紹介、活動の評価などを行っています。

③児童生徒を支援する学習支援ボランティア

みのかも文化の森では展示ガイド、アート、生活体験、伝承料理、イベント、学習支援の6分野の各ボランティアがそれぞれの活動を支えています。学校活用においては主に学習支援ボランティアが、児童生徒の引率や館内の案内、学習の補助などの支援を行っています。

現在、主婦・教員退職者・大学生等、26名の登録があり、各自の都合に合わせて活動しています。ミュージアムと児童生徒を、地域で育む大きな原動力となっています。

④学校と森・施設を結ぶバスの運行

みのかも文化の森は市のほぼ中央に位置していますが、徒歩で来館して授業時間を十分確保できる学校は1校です。この便宜を図るために準備段階から要望し、導入したのがみのかも文化の森専用のバスです。17年度からは、この「ぶんぶんバス」が外部委託になり、市内小中学校とみのかも文化の森間の送迎だけでなく、必要に応じてみのかも文化の森と他の施設間の送迎も行っています。

⑤一日過ごせる給食配送設備

事前に予約をすることにより、終日の活動の際には、学校と同様みのかも文化の森でも給食をとることができます。保健所と市給食センターの指導を得て、給食用ワゴン、冷蔵庫、配膳台等を用意しました。衛生面にもよく配慮をしています。

2 みのかも文化の森における学習の実際

(1) 文化の森で授業を行うプロセス

①学校活用の年間の割り振り

新年度が始まるまでには各学校の利用日を決めておきます。年度末に各学校の利用できる優先日を割り振り、学習係が各学校へ連絡します。同時に学習係は、みのかも文化の森の各施設を学校が利用できるように押さえておきます。各学校では教務主任が学校の行事予定を考慮して学習係と調整を行い、新学期を迎えます。

②学習活動のねらいと概要を報告

利用日が近づくと、みのかも文化の森でどの教科(領域)でどのような活動を行いたいのか、担任から学習係へ報告があります。美濃加茂市内の学校は、活動の概略が書き込める活動案テンプレートやバスの申請書など、記入して学習係に送れるようにネット(逍遙ネット)で結んであり、これを共に活用します。保育園や市外の学校とは、電話やFAX等で連絡を取り合います。

③担任と学習係との事前打ち合わせ

授業のおよそ2週間前に担任にみのかも文化の森に来てもらい、略案をもとに学習係と打ち合わせを行います。時には学芸員も参加し、学習を練り合います。学習のねらいや内容について、双方で準備するもの、バスの送迎時刻、昼食の有無など、学校側とみのかも文化の森側とが共通理解を得られるように、じっくりと話し合うようにしています。

④学習活動案（細案）の作成

事前打ち合わせをもとに、学習係が学習活動の細案を作成します。担任の指導を中心としながらも、学芸員や学習係、学習支援ボランティアがどの段階でどのような支援を行うかを明確にし、関係者全員が学習のねらいを共通理解できるように配慮します。活動案は、学校にはE-mailで届けるとともに、学習支援ボランティアを含むスタッフにも配布します。

⑤みのかも文化の森での授業

学校と同様、授業を中心に進めるのは担任です（T1）。授業の中に学芸員が入る場合はT2となり、学習係がT3、学習支援ボランティアがT4となってTTを行い、丁寧な支援が行えるように心がけます。

⑥1年間の活用をHPや実践集で公開

1年間に行った活動を学年毎にまとめ、さらに文化の森活用委員会や学芸員考案による新プラン、利用したワークシート類を編集して「活用の手引き・活用実践集」を作成します。これが次年度の教員の手引き書となります。文化の森HPでは学習活動の全紹介もしています。

（2）平成19年度 学校活用例

①はじめに

開館7年目となり、イベント的な活動から、各校の特色に合わせた継続的な活動へと移行してきました。活用校の中から、ここでそのいくつかを紹介します。

②あきはたのしいね（小学校2年生 生活科）

敷地内の自然観察の森を使って、「あきのどうぐづくり」をしました。木の実や木の葉、枝など森の中にあるものをうまく利用し、学習支援ボランティアと共に作ってみるなど、人との関わりのよさを体感した活動でした。



③福田太郎八とため池作り（小学校4年生 社会科）

文化の森のすぐ隣に太郎八のつくったため池のひとつである「太郎洞池」があります。実際に周りを歩いてその大きさや、赤土の地質、地形などを観察することによって、治水工事の大変さや、お百姓さんにとって水を得る事がとがどんなにありがたいことであったかなど、先人の努力を体験することによってより理解することができる活動でした。



④米づくりのむらから古墳のくにへ（小学校6年生 社会科）

自分たちの住んでいる地域の縄文時代・弥生時代を学習できる貴重な時間です。遺跡があり、発掘されたものが展示されており、学芸員による解説がある内容の濃い学習です。常設展示室を見ると、自分たちの校区から出土した遺物も展示されており、歴史を身近に感じる児童が多くいる活動です。



3 成果と課題

（1）成果

来館者数の全体を占める割合は小学校が大半です。6年間の文化の森での活動を経て、卒業を前にした今年度の6年生の子どものアンケートからも、美濃加茂市全体の学校にわたり、学びの場として文化の森をとらえていること、文化の森が資料を持ち、それを展示する博物館としてとらえていること、「実物の資料」が学習をより分かりやすくしていることなど、6年間の子どもの学びの成果を感じることができました。

その後、文化の森のことをどのように思っているのか、中学校の職業体験の期間に子どもの声を直に聞くことができました。「ボランティアさんは小学生への大変なサポートを通し

て、仕事がお金のためだけではない、自分の仕事にやりがいや誇りを持っていることに驚いた。仕事はそういうことも大切だということを身をもって感じた」というのです。

自分たちが学んできた「文化の森」をスタッフという立場から見ることでわかったこととして、「文化の森」とのかかわりの中で、さまざまな人の姿からも学ぶことができる、そして人と人のつながりの大切さに気づけた貴重な体験になっていることは、大きな成果であると考えています。

（２）課題

市内の中学校は、学校規模が大きく、学年全員にわたって同一のプログラムを実践することは難しいこと、また往復に時間がかかることもあって、活用がなかなか計画されません。総合的な学習の時間や職業体験学習などでの活用がありますが、文化の森で2回3回学ぶというような継続した活動は実践されていないのが残念です。今後、機会を設けて、みのかも文化の森にある豊かな人・もの・こと・場を学校に伝え、学習財を開発したり、文化の森活用委員会でプランを練ったりして中学生の学習意欲に応えられるような活用を生み出していきたいと考えています。そして、博学融合の場、生涯教育を支援する場として、みのかも文化の森のリピーターを、すべての年代層に増やしていけたらと考えています。

また、活用が豊かになるにつれて指導者や子どもが安心して文化の森で授業が行えるように、安全面の配慮が重要になってきました。学校とは違い、自然が多く残っている多くの市民が活用する場です。活動中の子どもたちの安全を確保し、緊急時に被害を最小限に食い止める連絡体制を含めた安全に関する環境作りをより心がけていきます。

◆施設の利用状況

1. 利用状況

月	常設展	企画・特別展	学校活用	教育相談等	貸 館	定期講座	イベント等	情報学習室	視 察	市民活動	その他	合 計
4月	1,631	75	210	248	2,342	74	153	0	0	229	496	5,458
5月	1,825	742	1,059	150	1,377	159	893	0	0	363	656	7,224
6月	1,683	129	1,247	248	3,229	187	100	34	11	354	722	7,944
7月	1,422	984	431	235	1,830	204	110	0	0	329	555	6,100
8月	2,482	2,399	84	236	1,794	507	434	33	38	371	838	9,216
9月	2,857	1,515	363	204	3,938	154	3,026	0	0	224	1,228	13,509
10月	2,366	1,016	1,557	260	5,075	79	1,000	0	25	308	1,169	12,855
11月	1,851	1,765	1,398	304	2,172	48	540	29	45	162	831	9,145
12月	1,842	341	508	219	3,183	127	2,915	28	20	258	944	10,385
1月	896	525	727	194	1,538	36	259	32	0	204	441	4,852
2月	1,319	756	610	274	979	98	111	0	15	243	441	4,846
3月	1,533	416	344	244	1,857	53	60	0	3	184	469	5,163
合 計	21,707	10,663	8,538	2,816	29,314	1,726	9,601	156	157	3,229	8,790	96,697
前年度	23,425	9,837	8,311	3,492	29,882	1,701	10,052	398	217	0	8,658	95,973
比 較	-1,718	826	227	-676	-568	25	-451	-242	-60	3,229	132	724

* その他には、ボランティア活動参加者、喫茶店利用者等を含む。

◆来館者アンケートの結果

みのかも文化の森では、企画展開催時に来館者アンケートを実施しました。本結果は下記の日程でおこなった来館者アンケートの5回分をまとめたものです。

☆実施日と開催中の企画展名

平成19年 4月28日～ 6月 3日 土に残る記憶V－奈良時代へ－
 平成19年 8月12日～ 9月 2日 「星野道夫－星のような物語－」展
 平成19年 9月15日～10月21日 小島久弥展 Critical Point 50≒0 ボク達はどこから来て、どこへ行くのだろう
 平成19年12月15日～ 1月20日 「逍遙とシェイクスピア～世界はすべて劇場である～」展
 平成20年 2月 2日～ 3月16日 岐阜県二人展 松本竣介・麻生三郎
 総回収数 1,553枚

1. どちらからお越しですか？

☐美濃加茂市内 453名
☐市外（岐阜県内） 716名
☐岐阜県外 384名

2. どのように起こしになりましたか？

☐自動車 1350名
☐鉄道 100名
☐コミュニティバス 7名
☐タクシー 6名
☐徒歩 8名
☐自転車 11名
☐その他 3名

3. どなたと来館されましたか？

☐一人で 314名
☐家族で 716名
☐友人と 331名
☐その他 68名

4. あなたの年齢は？

☐10歳未満 18名
☐10代 58名
☐20代 145名
☐30代 247名
☐40代 251名
☐50代 298名
☐60代 283名
☐70代 146名

5. あなたの性別は？

☐男性 568名
☐女 893名

6. 何回目のご来館になりますか？

☐初めて 816名
☐2回目 117名
☐3～5回目 176名
☐6回目以上 360名

7. 展示（企画展）についてお聞かせください。

①企画展を何でお知りになりましたか？

☐友人などから 451名
☐文化の森ニュースやポスターなど 332名
☐市の広報 198名
☐新聞や雑誌など 194名
☐インターネットから 121名
☐JR車内広告 9名
☐他の博物館 76名
☐その他 188名

②展示資料・作品のみやすさ（配置、明るさ、空間など）にご満足いただけましたか？

☐満足 696名
☐ほぼ満足 447名
☐普通 210名
☐やや満足 79名
☐不満 14名

③展示の資料・作品のわかりやすさ（解説、説明、パネルなど）にご満足いただけましたか？

☐満足 615名
☐ほぼ満足 491名
☐普通 250名
☐やや満足 79名
☐不満 8名

④展示の資料・作品からの満足感（感動、発見、知的刺激など）が得られましたか？

□満足 829名
□まあ満足 408名
□普通 159名
□やや満足 41名
□不満 5名

8. 館の施設や対応についてお聞かせください。

①館の施設や雰囲気・美観などにご満足いただけましたか？

□満足 652名
□まあ満足 552名
□普通 257名
□やや満足 20名
□不満 3名

⑤この展示を他の人に伝え、すすめたいと思いますか？

□大いに 897名
□少し 337名
□どちらともいえない 174名
□あまりすすめたくない 17名
□すすめたくない 6名

②スタッフの対応（総合案内、会場内、他のスタッフなど）にご満足いただけましたか？

□満足 645名
□まあ満足 467名
□普通 357名
□やや満足 20名
□不満 3名

9. 文化の森へのご意見、ご要望をお聞かせください。（主な意見や要望を抽出）

○土に残る記憶V－奈良時代へ－

- ・教科書、資料集等の記述が、この地域ではどうだったかということにつながり、より興味がわくものでした。歴史は資料の中にある遠いところの話ではなく、この足下にもあることを再認識しました。
- ・昔の資料が良く集まっていた。子どもたちを巻き込んで活動しているのが良い
- ・しっかり説明もかまえてあって、分かりやすかった。
- ・墨で書いた昔の文字が現代まで残っているのは、素晴らしいと思いました。衣装が着られて楽しかったです。

○「星野道夫－星のような物語－」展

- ・大きなパネルで見ることができて感動した。
- ・語りかしてくるような写真で、心が洗われる気がした。
- ・心の奥深くしみ入る内容なのに、感動しました。この間アラスカに行ったので、楽しみしていました。無事見ることが出来、満足です。一枚撮るのにどれだけの時間を使ったのだろうと思うと感慨深いです。
- ・アラスカに行ってみたくまりました。厳しい自然の中で生きている動物、植物が素晴らしいと思います。

○小島久弥展

- ・作品と、元々の場所とぴったりきていて、不思議な感じがした。
- ・凄く良い刺激になった。
- ・これだけの広さの中に、うまく作品が置かれていた。
- ・見やすい人数で、いい空間だったと思った。

○「逍遙とシェイクスピア～世界はすべて劇場である～」展

- ・逍遙の文学的芸術的才能の素晴らしさをまざまざ聞いた。往時の改革者として逍遙の名声をあらためて感じた。
- ・とても情熱的な話し方で力説され、聞きやすい講話だった。
- ・久しぶりに高尚な大学の授業を受けた感で時間の経過も忘れ「逍遙」が身近になった気がする
- ・心、豊かになった満足感でいっぱいです。

○岐阜県二人展 松本竣介・麻生三郎

- ・松本竣介は前から好きで今回の展示は楽しみにしていた。美濃加茂、岐阜県にゆかりのあることを知り、面白かった。
- ・故郷の近くで、かつてこのような展示会があったとは知らなかった。
- ・調査が大変だったのでは、と思った。
- ・ガラス越しで見づらかった。

■広報活動の記録

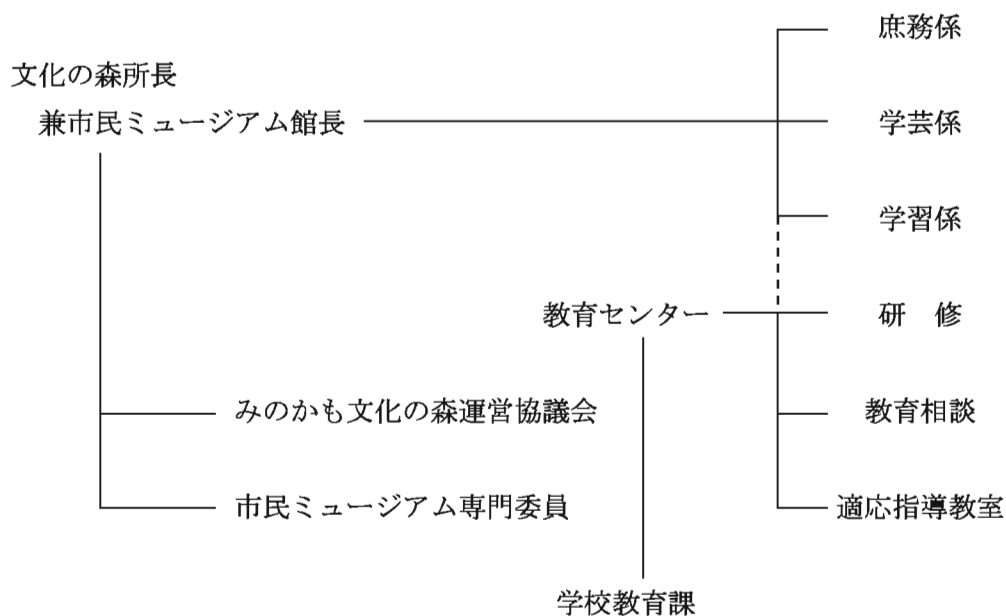
平成19年度中に掲載された主な新聞・雑誌等についてのまとめ

	掲載紙	掲載日・掲載号	掲載内容
新聞関係	岐阜新聞	2007.4.13	四季を食べる講座「ちまきとあまちゃ」
		2007.4.27	ふらつとふらつとあむむ「むすんで、むすんで」
		2007.5.4	四季を食べる講座「山菜おこわ」
		2007.5.8	くらし体験講座「お茶摘み体験」
		2007.5.14	春・朗読の一日
		2007.5.18	森のコンサート「古代への道」
		2007.5.27	強さあふれる07
		2007.6.1	四季を食べる講座「朴葉もちとこもどうふ」
		2007.6.8	四季を食べる講座「うどん16パティ」
		2007.7.6	美・柳子展 稲とまゆの07関連講座「真綿づくり講座」
		2007.7.13	四季を食べる講座「ミウガ寿司」
		2007.7.20	アートな1日講座「コラグラフ」
		2007.8.24	アートな1日講座「パソコンでアート」
		2007.8.31	四季を食べる講座「ユワカンとおはぎ」
		2007.9.16	小島久弥展
		2007.10.31	まゆの家まつり
		2007.11.17	科学の祭典inみのかも
		2007.11.17	第52回美濃加茂市美術展
		2007.12.5	逍遙とシェイクスピア展 世界はすべて劇場である
		2007.12.5	第11回朗読フェスティバル
		2007.12.7	アートな1日講座「高島純さんとクリスマスペーパークラフト」
		2007.12.14	森の朗読会 逍遙とシェイクスピア
		2008.1.11	フォーラム「逍遙とシェイクスピア」
		2008.1.13	鏡開き
		2008.1.13	鏡開き
		2008.1.13	暮らしの道徳講座08 ミュージアムフォーラム 逍遙とシェイクスピア 翻訳と研究・上演と朗読の全体像を求めて
		2008.1.25	アートな1日講座「フィギュアをつくろう」 森のコンサート「新春ソプラノコンサート」
		2008.2.15	四季を食べる講座「ひなまつりのごちそう」
		2008.2.22	アートな1日講座「フェルト」
		2008.3.2	くらし体験講座「お茶摘み」
	中日新聞	2007.4.22	收藏品展「日本橋下」展
		2007.5.11	四季を食べる講座「山菜おこわ」
		2007.5.9	くらし体験講座「お茶摘み体験」
		2007.5.16	春・朗読の一日
		2007.5.19	「にっぽん」第11回内道大賞者 観世栄夫追悼
		2007.5.21	森のコンサート「古代への道」
		2007.5.31	美・柳子展
		2007.6.14	第64回 森の朗読会 ゴールデンアート・朗読・ビデオ上映会
		2007.7.12	自然観察講座「バツヤの生態観察」
		2007.8.2	森のコンサート
		2007.8.3	ふらつとふらつとあむむ「キラキラぼこ」
		2007.8.12	くらし体験講座「蚊帳つり」
		2007.8.30	能楽座公演 第11回内道大賞者 観世栄夫追悼
		2007.8.30	星野道太郎～星のような物語～
		2007.9.2	演劇「十二夜」
		2007.9.5	演劇「十二夜」
		2007.9.13	小島久弥展
		2007.10.1	能楽座公演 第11回内道大賞者 観世栄夫追悼
		2007.10.10	小島久弥展
		2007.11.7	四季を食べる講座「へぼご飯とむかご」
		2007.11.16	第52回美濃加茂市美術展
		2007.12.6	くらし体験講座「障子はり」
		2007.12.11	アートな1日講座「高島純さんとクリスマスペーパークラフト」

		2007.12.18		道達とシェイクスピア展 世界はすべて劇場である
		2008.1.17		幕ラシカル道具展08
		2008.1.18		ミュージアムフォーラム 道達とシェイクスピア 翻訳と研究・上演と朗読の全体像を求めて
		2008.2.6		幕ラシカル道具展08
		2008.2.9		岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎
		2008.2.6		幕ラシカル道具展08関連講座「わらざり作り」
		2008.2.28		岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎
		2008.2.28		岐阜縣二人展 松本竣介・麻生三郎
	毎日新聞	2007.8.29		星野道夫展～星のような物語～
	朝日新聞	2007.7.4		学習支援ボランティア「茶の湯」
		2007.8.24		星野道夫展～星のような物語～
		2007.9.11		小島久弥展
		2007.9.30		能楽座公演 第11回坪内逍遙大賞者 観世榮夫追悼
		2007.12.21		森のコンサート「アンサンブル・ジョーカーレ」
		2008.2.20		アートな1日講座「フェルト」
	北日本新聞	2007.12.18		道達とシェイクスピア展 世界はすべて劇場である
雑誌関係	ぴあ 中部版	2007.4.12	No.482	宮本梢子 展
	月間なごや	2007.9		カリヨンのある風景
	TJ Gifu	2007.9	vol.383	星野道夫展～星のような物語～
	中日新聞「chu-ta」	2007.4	4月号	土に残る記憶Ⅴ展―奈良時代へー
		2007.5	5月号	土に残る記憶Ⅴ展―奈良時代へー
		2007.6	6月号	美・粒子展
		2007.8	8月号	星野道夫展―星のような物語
		2007.9	9月号	小島久弥展 Critical Point 50年0 ボク達はどこから来てどこへ行くのだろう
				観世榮夫追悼「能楽座」能・狂言公演
		2007.10	10月号	フリーマーケット
		2007.11	11月号	科学の祭典inみのかも
		2007.12.	12月号	道達とシェイクスピア展 世界はすべて劇場である
	Chat	2007.4	vol.89	春・朗読の一日
		2007.5	vol.90	春・朗読の一日
		2007.12	vol.97	道達とシェイクスピア展 世界はすべて劇場である
	かにさんくらぶ	2007.4.27	vol.143	土に残る記憶Ⅴ展―奈良時代へー
		2007.8.27	vol.147	森のおとづくり講座 野外劇 オムニバスシェイクスピア 科学社会科作品展・発明工夫展
		2007.9.27	vol.148	小島久弥展
		2007.11.27	vol.150	森のコンサート「くるみ割り人形＋クラシック」
	どーなっつ	4月～6月	第28号	アートな1日講座「モザイクアート」 くらし体験講座「お茶摘み体験」
		7月～9月	第29号	夏休み子ども講座「ナイトサファリ」 夏休み子ども講座「おしゃれなぼうし かぶりのコレクション」 パソコンで作ろう
		10月～12月	第30号	科学の祭典inみのかも アートな1日講座「お菓子でつくるクリスマス」 高島純さんとクリスマスペーパークラフト
	ラン・タン	4月～6月	第29号	四季を食べる講座「ちまきとおもち」 アートな1日講座「モザイクタイルアート」 くらし体験講座「季節を染める(春を染める)」 企画展「土に残る記憶Ⅴ展―奈良時代へー」 くらし体験講座「お茶摘み体験」 四季を食べる講座「手作り豆腐」 企画展関連イベント ミュージアムライブ 古代琴演奏会 四季を食べる講座「梅の漬け方と梅料理」
		7月～10月	第30号	四季を食べる講座「ミウガ寿司」 アートな1日講座「コラグラフ」 夏休み子ども講座「ナイトサファリ」 夏休み子ども講座「おしゃれなぼうし かぶりのコレクション」 森であそぼ「植物標本をつくらう」 くらし体験講座「季節を染める(夏を染める)」 森であそぼ「バッタの生態観察」 くらし体験講座「虫かごづくり」

			くらし体験講座「穀類つり」 四季を食べる講座「すいとん」 科学作品展・発明工夫展 四季を食べる講座「栗おこわ」 くらし体験講座「季節を染める(秋を染める)」 文化の森たんけんたい「はくぶつかんの秘密を探る」 ふらっとみゅーじあむ「キラキラばこ」 ふらっとみゅーじあむ「まるちまっくん」 ふらっとみゅーじあむ「ぼろり、ぼろり」 「ほしのみちお」ワールドへGO! ふらっとみゅーじあむ「くねくね こねこね」 夏の子ども講座「パソコンで作ろう」
	12月～3月	第32号	逍遙とシェイクスピア展 世界はすべて掌中である ミュージアムフォーラム「逍遙とシェイクスピアへ翻訳と研究・上演・朗読の全体像を求めて」 ミュージアムトーク くらし体験講座「農閑き」 暮らしカル道具展08 四季を食べる講座「あずきごはみ」 アートな1日講座「フィギュアをつくろう」 くらし体験講座「ひなカざり」 くらし体験講座「まゆびなづくり」 四季を食べる講座「ひなまつりのごちそう(先干し大豊の煮物と小豆飯)」 ひな菓子作り「がんどうち」 アートな1日講座「フェルト」 アートな1日講座「陶芸」
はじめのいっば	2007.4.1	第22号	くらし体験講座「季節を染める(春を染める)」 くらし体験講座「お茶摘み体験」 四季を食べる講座「手作り豆腐」 企画展「土に残る記憶Ⅴ—奈良時代へ—」
	2007.7.1	第23号	四季を食べる講座「ミウガ寿司」 四季を食べる講座「すいとん」 四季を食べる講座「ユワカシとおぼろぎ」 森であそぼ「バッタの生態観察」 森であそぼ「植物標本をつくろう」 くらし体験講座「季節を染める(夏を染める)」
	2007.10.1	第24号	アートな1日講座「陶芸」 まゆの家まつり 四季を食べる講座「冬至のごちそう(手作りこんにやくとにんじんご飯)」 四季を食べる講座「おせち料理」 くらし体験講座「障子はり」 くらし体験講座「季節を染める(冬を染める)」 科学の祭典inみのかも
	2007.12.1	第27号	企画展関連企画 ミュージアムトーク 暮らしカル道具展08 アートな1日講座「高田純さんとクリスマスペーパークラフト」 アートな1日講座「フィギュアをつくろう」 ひな菓子作り「がんどうち」
ぼけっと	2007.5.1	第24号	くらし体験講座「お茶摘み体験」 四季を食べる講座「手作り豆腐」 アートな1日講座「壁でアート—拓本—」
	2007.7.1	第25号	アートな1日講座「コラグラフ」 森であそぼ「植物標本をつくろう」 森であそぼ「バッタの生態観察」 「ほしのみちお」ワールドへGO! ふらっとみゅーじあむ「キラキラばこ」 くらし体験講座「鳥かごづくり」

◆みのかも文化の森の組織図



◆利用案内

開館時間 9:00～17:00（ただし、展示以外の施設利用は 22:00 まで）

休館日 市民ミュージアム 毎週月曜日（ただし、祝日の場合は開館し、翌日休館）
第 4 火曜日、年末年始

教育センター 土・日曜日、祝日、年末年始
（ただし、教育相談は土・日曜日、祝日も実施）

駐車場 北駐車場 10 台 東駐車場 54 台 南駐車場 110 台

交通 鉄道 JR 名古屋駅から美濃太田駅まで特急で 10 分
美濃太田駅北口から徒歩 17 分

自動車 東海環状自動車道美濃加茂 IC から約 5 分

みのかも文化の森 年報

(平成19年度)

編集・発行 みのかも文化の森

2009年1月31日

〒505-0004

岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299-1

電 話 0574-28-1110

FAX 0574-28-1104

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印 刷 (有)永田印刷